舵を切り、

チングを図るチカラかもしれない。米作りに

と高質なサービスの演出と提供、市場とマッ れば、これら資源の巧みな調和、一流の加工 源に恵まれている。不足するものがあるとす を育み、美しい自然と温泉など実に多様な資

秋田はやわらかな風土、温厚なココロ、食や酒、

多様な文化や祭り

と言われる秋田だからこそ、本当の意味で若い世代にとって魅力あ

持続可能な地域を作る取り組みには若い世代が必要だ。課題先進地

偏重しすぎた農業からサービス提供重視型に

新たな発想で、資源を徹底的に生 都会人のココロを取り込む資源活

用での地方創生に取り組んでみたらどうだろ

## 秋田版 ふるさと創生」の視点

# 局 品質 切る (昭和46卒

様な民族文化をも育んできた。先人は豊かで活気ある秋田をつくるた め惜しみない努力を払いこれまでの秋田を築いてきた。 てきた。自然と調和した美しい田園のある風土の中、温厚な人柄、 田の人は農業を中心に厳しい自然に向き合い、粘り強く耐え生

度的だ。秋田は大昔から一貫し、農業を通じ大事なものを寡黙に守り を担ってきた。 続け、実直に生きて来たとも言える。体に例えれば静かにエネルギー 市に吸い出され、地方の人口減少と衰退は全国的に進み、秋田は加速 グローバル化と社会経済情勢の変化が激しい時代、人とカネは大都 貯めこむ肝臓のようなもの、体の底ヂカラを出す大事な部分

が見える街のように思える。 産の栗と歴史文化を組み合わせた長野、小布施などは典型的な頑張り きつける。洗練された質の高いサービスで満足度も高くなる。地場特 然や風土、歴史や培ってきた文化など、持つ資源を有効に活用し、元 する。そこには共通するものがあるように思う。土地の資源である自 なものさえ感じさせる。単なるマネー力学ではなく、奥深さで人を引 マッチングさせビジネスにする。説得性とともに物語性、時に哲学的 からある産業に刺激を与え育んでいる。巧みな知恵を入れ込み市場と 趣味の旅行で各地の活気ある街に出会うと、元気な理由を素人探索

こまつ・まもる/1952年秋田市生ま れ。1975年帯広畜産大学獣医学科卒 業と同時に秋田市大森山動物園に獣 医として着任。以来40年以上にわたり 大森山動物園一筋。1998年からは動 物園長として夜の動物園など新機軸を 次々に打ち出し、年間入場者25万人超 の人気をけん引。



の魅力には目を向けず、都会と比べることでしか秋田を見ていなかっ 知らないことが多すぎたと痛感している。郷土愛は持っていても、そ たことも多く、その面白さに気付くとともに、これまで郷土に関して れては、豊かな自然、多様な伝統行事、独自の食文化など初めて知っ た。地方には地方の良さがあり、秋田には多くの魅力がある。恥ずか しながら故郷に帰ってきたからわかったことだ。 秋田に帰ってきて1年と半年が過ぎた。帰郷してから県内各地を訪

り方を見直すことではないだろうか。 地域を作る方策を考え、人口減少社会に対応し社会制度や自治体のあ められていることは、人口減少に歯止めがかからなくとも持続可能な 事態が好転するわけではないことを認識しなければならない。真に求 が、人口減少に歯止めがかかったからといって地域課題が全て解決し、 取り上げられる。これは秋田だけでなく地方では以前から直面してい た現実であったはずだ。健康寿命の延伸、雇用の確保、子どもを安心 齢化、人口流出、地域の衰退など、決して明るいとは言えない将来が して生み育てられる環境の整備など人口を軸とした対策を講じている 秋田には多くの魅力があると同時に、課題も多い。人口減少、

はずだ。秋田の魅力が若い世代の行動力とそ その積み重ねがこれからの未来を創っていく きく育つための協力を惜しまないで欲しい。 可能性を見据えて、若い世代が自ら率先して る地域や環境とは何であるのか、何が必要な れを支える地域の力だと言われる未来を願っ 試行錯誤する動きも少しずつ見え始めている。 一方で、現状に対する危機感と、これからの 一つひとつは小さな種かもしれないが、大 かを真摯に向き合い考えなければならない。 さいとう・たもん/1981年秋田県井川 町生まれ。日本大学卒。2015年2月、

父親の急死に伴う井川町長選に出馬、 33歳の若さで初当選。秋田県内の最 年少首長。小中一貫教育を行う県内初 の「義務教育学校」の創設準備や町 診療所の常勤医師確保など課題解決 に向け全力投球の日々。

(平成12卒)